

令和 7 年度
自己評価・学校関係者評価表

専門学校 ノアデザインカレッジ

1. 教育理念・目標

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	④ 3 2 1
・教育目標は卒業時の到達が読みとれるものになっているか	④ 3 2 1
・教育理念並びに教育目標は定期的に見直されているか	④ 3 2 1
・教育理念並びに教育目標が教職員・学生に浸透しているか	④ 3 2 1

【成果と課題について】

入学時のオリエンテーションや学校案内などで教育理念や目標を伝えるとともに「好き」を将来につなげる。というコンセプトのもと教職員・学生に周知している。また、アドミッションポリシーやディプロマポリシー、カリキュラムも学内で明示している。

【今後の改善及び学校関係者評価について】

教育理念や目指すことができる目標は、学校案内やホームページでも周知されている。入学時にオリエンテーション等で教育理念や目標をしっかりと伝え、有意義な学生生活と将来に向けたサポートができるように教職員一丸となって教育活動に取り組んで行きたい。

2. 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・カリキュラムは教育目標が反映されているか	④ 3 2 1
・定期的なカリキュラムの見直しがなされているか	④ 3 2 1
・テキストや教材は適切なものを選定しているか	④ 3 2 1
・シラバスが作成され学生に配布されているか	④ 3 2 1
・授業の点検・評価が適切に実施されているか	④ 3 2 1
・資格試験の合格率は	④ 3 2 1
・資格試験不合格者の対策は	④ 3 2 1
・評価は適切な方法で行われているか	④ 3 2 1
・外部企業との連携により実践的教育活動は行われているか	④ 3 2 1
・目標に到達しない学生に対し適切なフォローがなされているか	④ 3 2 1
・進級、卒業の判定審査は適切に実施されているか	④ 3 2 1

【成果と課題について】

デザイン・クリエイティブ業界の動向や学生の志向を踏まえ、カリキュラムおよび教材については毎年度見直しを行うとともに、それに対応した教員配置・補充を実施している。

また、定期的に学生との個別面談を実施し、履修状況の確認や授業改善に向けた意見収集に活用している。学習目標に達していない学生に対しては、補講等によるフォローを行い、学習支援に努めている。

一方で、学生ごとに得意・不得意分野が異なることから、個々の適性や強みを踏まえ、希望する職種が自身の強みを活かせる進路につながるよう、より適切な指導・助言を行っていく必要があると認識している。

【今後の改善及び学校関係者評価について】

専門性を身につけていく過程で、技術や社会の変化のスピードはこれまで以上に速く感じられる。そうした中、2年間という限られた時間の中で、いかに実践的な専門技術を身につけてもらうかが、本校にとっても大きな課題であり、使命になる。

また、学びの多様化が進み、学生一人ひとりの背景や学び方もさまざまになってきた。デジタル技術が当たり前となった今だからこそ、従来のアナログ的な手法とデジタルの利点を組み合わせた新しい教育スタイルが求められている。

3. 学生受入れ

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学生募集のための広報資料の表現・内容並びに広報活動の方法・時期は適切か	④ 3 2 1
・入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	④ 3 2 1
・募集要項の内容は適切か	④ 3 2 1
・学校説明会、体験入学の時期、内容は適切か	④ 3 2 1
・入学者選抜の時期、方針、方法は適切か	④ 3 2 1
・志願者状況、定員充足率はどうか	④ 3 2 1

【成果と課題について】

今年度も昨年度と同様定員を満たすことができた為次年度も引き続き丁寧な募集活動を心がけたい。各種募集媒体社とも連携をはかり広報資料の表現・内容並びに広報活動の方法・時期は適切である。説明会・体験会なども随時開催することで興味のある学生に対して説明できている。また、今後少子化で募集対象人数が減少していく中で社会人や大学卒業後、専門知識や技術を習得したい人を募集に力をいれていく。

【今後の改善及び学校関係者評価について】

入学者選抜においては、今年度も昨年度に続き定員を満たしており、安定した募集状況を維持している点は評価できる。次年度以降も、丁寧な募集活動を継続する方針が示されていることは妥当である。各種募集媒体社と連携しつつ、広報資料の表現・内容や広報活動の方法・実施時期について適切に検討し、説明会や体験会を随時開催することで、関心を持つ学生に対して直接説明する機会を確保している点も良い。また、少子化により募集対象人口が減少していくことを見据え、社会人や大学等卒業後に専門知識・技術の習得を希望する層への募集に力を入れていく方向性を明確にしていることは、今後の学生確保に向けた有効な視点である。今後は、こうした対象層に合わせた広報内容や説明機会の工夫を一層進めることも検討してはどうだろうか。

4. 教職員組織

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・専任教員は設置基準を満たしているか	④ 3 2 1
・専任教員1人あたりの担当科目時間数は適切か	④ 3 2 1
・教職員の業務分掌は明確になっているか	④ 3 2 1
・教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	4 ③ 2 1
・教職員の資質向上のためのシステムは適切に構築されているか	4 ③ 2 1
・職員は業務が滞りなく遂行できる人数を雇用しているか	4 ③ 2 1

【成果と課題について】

社会および学生が求める分野で教職員を新たに採用するなど求められるカリキュラムに応じて教職員組織をその都度改めるようにしている。
講師も第一線で活躍する講師を各、授業に配置し業務が滞りなく遂行できる人数を雇用できている。

【今後の改善及び学校関係者評価について】

社会および学生ニーズに応じて教員組織やカリキュラムを機動的に見直し、必要な人材をその都度採用している点は、高度な職業教育を担う専門学校として評価できる。各授業に現場の第一線で活躍する講師を配置し、教育および校務が滞りなく遂行できるだけの教職員数も確保されており、安定した教育提供体制が整っている。今後は、常勤教員と非常勤教員との連携体制や、カリキュラム編成方針をより一層「見える化」することで、一貫性ある教育の特徴が一層明確になることを期待する。

5. 教育環境

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・講義室は学習を行うのに十分な面積を有しているか	④ 3 2 1
・実習室は実習を行うのに十分な面積を有しているか	④ 3 2 1
・実習設備は整備されているか	④ 3 2 1
・講義室・実習室の管理は適切に行われているか	④ 3 2 1
・学生が自学自習できる教室を有しているか	④ 3 2 1
・教育用機器備品は整備されており活用されているか	④ 3 2 1
・職員室の管理は適切に行われているか	④ 3 2 1

【成果と課題について】

1学年30名強、全体で60名強の学生数に対し、地下1階から7階までに講義室、実習室、面談室等を配置しており、教育環境として十分な施設・設備を整備している。

また、学校において定期的にパソコンを更新・整備し、学生への貸与を行っているほか、各種デザイン分野に必要なアプリケーションを導入した状態で利用できる環境を整えることで、学生が学習に専念しやすい体制を構築している。印刷環境については、A3サイズまでインクジェットおよびレーザープリンタによる出力に対応している。一方で、大判プリント等への対応については、授業内容や教育ニーズを踏まえ、今後の設備導入を検討していきたい。

【今後の改善及び学校関係者評価について】

パソコン・ソフトウェアの定期的な更新と学生への貸与、各種デザイン分野に必要なアプリケーションの整備により、学生が学修に専念できる環境が構築されている。印刷環境についても、A3サイズまでインクジェットおよびレーザープリンタで出力可能であり、日常的な課題や演習には支障がない水準にある。今後は授業内容や教育ニーズの変化を踏まえ、大判プリント等に対応できる設備の導入を段階的に検討していくことで、一層充実した教育環境となることで学校としても環境に配慮される。

6. 学生支援

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・奨学金等、経済的支援は整備されているか	④	3	2	1
・学生相談に関する体制が整備・機能しているか	④	3	2	1
・各学校行事について適切に実施されているか	④	3	2	1
・防災訓練・防犯の実施は行っているか	④	3	2	1
・進路活動に関する支援が整備され、機能しているか	④	3	2	1
・健康診断など学生の健康管理を行っているか	④	3	2	1
・保護者との連携はできているか	④	3	2	1
・新たな求人開拓の努力はしているか	④	3	2	1

【成果と課題について】

進路の相談といったものから個人的な相談まで、学生と教員が学生生活をサポートしている。就職活動では全体と個別に就職活動を支援しており、就職率向上に努めている。学校求人数は年々増えてきたがデザイン系などは少ないため今後デザイン、エンタメ企業の求人を増やしていく必要がある。課題としては学校から勧めた求人に対して卒業後、本人や保護者より話が違うなどご意見をいただくこともあるので就職については学生の人生を左右するものだと認識しなるべく学生の自主性を尊重し自ら企業を探し決められる環境を用意し就活できるよう教職員全体でサポートしていきたい。

【今後の改善及び学校関係者評価について】

進路相談から個人的な悩みまで、学生と教員が日常的に関わりながら学生生活を支えている点は評価できる。就職活動においても、全体指導と個別指導の双方を通じて支援を行い、就職率向上に努めている。学校求人数は年々増加しているものの、デザイン系・エンタメ系の求人が十分とはいえない状況を課題として認識し、今後の開拓の必要性を明示している点も妥当である。就職が学生の人生に大きな影響を与えるという認識のもと、学生の自主性を尊重しつつ、自ら企業を探し選択できる環境づくりを進めようとする姿勢は望ましい。今後は企業情報の事前共有やマッチング精度の向上に一層取り組んでいけばもっとよくなると思う。

7. 管理・運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・理事会・評議員会は適時適切に開催され、機能しているか	④ 3 2 1
・理事会、評議員会の議事録は適切に作成、管理されているか	④ 3 2 1
・就業規則などの諸規程は適切に整備されているか	4 ③ 2 1
・就業規則などの諸規程・学則等が定期的に見直されているか	4 ③ 2 1
・組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	④ 3 2 1
・消防計画、学校安全計画等は適切に整備されているか	4 ③ 2 1
・個人情報保護法を遵守しているか	④ 3 2 1
・セクシャルハラスメントに対する防止・対応策が整備されているか	4 ③ 2 1
・財務分析比率は適切な数字になっているか	④ 3 2 1
・学校の財務情報を公開する適切な体制が整備されているか	④ 3 2 1

【成果と課題について】

財務情報等の公開をホームページで行っている。
諸規定等については、現在の実情に合っていないところもあると思われるので、見直していきたい。

【今後の改善及び学校関係者評価について】

財務情報等の公開をホームページで行っている。財務状況は比較的余裕があると思われる。
諸規定等については、現在少しずつ整備をしているところであるが、まだ実情にあっていないところもあると思われるので、今後も順次見直していきたい。

学校関係者評価委員会議事録

会 議 名	学校関係者委員会
開催日時	令和 8 年 6 月 20 日（土）13:00
場 所	専門学校ノアデザインカレッジ
出席者	出席者：学校関係者評価委員会 委 員 赤石恒一【株式会社AKA I S H I 代表取締役社長】 委 員 林 伸一郎【プライムケア東海株式会社 代表取締役】 委 員 一瀬 猛【株式会社一瀬コーポレーション 代表取締役】 委 員 工藤 晴也【東京芸術大学 名誉教授】 （計 4 名） 専門学校ノアデザインカレッジ教職員 教職員 藤江 通昌 【理事長・校長】 教職員 白瀧 真之 【教員】 （計 2 名） （参加者合計 6 名）
議 題 等	1 学校長挨拶及び学校関係者評価内容の確認 藤江学校長 2 現状と改善について 白瀧より 3 意見交換 説明についての質疑応答、評価実施に関することや今後の進め方など 4 閉会 以上

別紙 学校評価にて概要記述